

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272600289		
法人名	社会福祉法人八千代会		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	青森県むつ市川内町獅子畑128番地4		
自己評価作成日	平成30年11月2日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な法岳のふもと、川のほとりの自然環境豊かな地にホームが立地しており、温泉が沸き、利用者はいつでも温泉浴ができることを大変喜んでます。地域の方々も温泉を利用されたり、敷地内の湧水を飲みに来られ、利用者とも馴染みになっています。
 法人施設は全て廊下で繋がり、デイサービスやショートステイの利用者、特養入所者が自由に行き来することができます。利用者もリハビリに参加したり、自由に自分のペースで生活しています。
 訪問される地域の方々が多く、山菜や海産物等を届けてくださり、自分の家で暮らしていた頃と同じように安心して生活を送っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周辺は住宅も少なく、豊かな自然に恵まれた環境にあり、敷地内でも十分に散策を楽しめ、季節の移り変わりを感じることができる。
 法人のスケールメリットを活かし、併設する施設や在宅介護支援センター等との連携により、介護計画に関する評価から災害対策まで単独のグループホームでは為し得ないような幅広い範囲において、充実した取り組みを実現している。
 また、法人内での業務連絡会議や連絡調整会議等、頻繁に開催する諸会議での協議により各職員間の意思疎通を十分に図り、現場の状況や意見等に応じた柔軟且つ適切なホーム運営となるように仕組みを整備しており、利用者もゆったりくつろいで生活を送っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成30年12月12日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域社会との繋がりを重んじ、生活環境の中で「安心・安全な生活」を理念として、利用者職員が「笑顔で元気」をモットーとしている。	理念には「住み慣れた地域社会とのつながりを重んじ」と謳い、地域性を活かしたサービス提供に努めており、年間事業計画でホーム運営に対する理念や方針、目標等を定め、職員間で共有・理解を図っている。また、理念や接遇の心得等はホールや廊下に掲示して、朝の申し送りの時等にも確認し、日々のサービス提供場面に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービス利用者や研修、ホームの見学を受け入れ、地域の行事に積極的に参加し、交流を持っている。	地域の特性により、ホーム設立時から周辺の住民や婦人会、小中学生等との関わりが多く、地域の祭り見学のほか、ホームの行事へ町の老人クラブや地域住民を招待する等、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護支援センターと連携して、地域の方々の介護者教室時に見学を受け入れている。また、介護方法や相談を受けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、市職員や町内会長、家族が出席し、ホーム内の行事や研修、取り組み等を報告している。	運営推進会議の委員に行政担当者や民生委員、町内会関係者、家族代表等が参加しており、外部評価等の報告に加え、利用者の近況やサービス提供での課題等についてアドバイスを受け、サービスの質の向上に繋がっている。また、外部評価結果については廊下にも掲示し、面会等で訪れた家族も見られるように配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員が運営推進会議に出席し、情報を提供して連携を図る。また、問題が発生した時は行政と相談して解決したり、良好な関係を構築している。	運営推進会議に行政担当者が参画しているほか、リーフレットや広報誌を庁舎や町内の公共施設等に配布し、情報提供している。また、自己評価及び外部評価結果等を提出し、ホームの運営やサービス提供での課題等について適切なアドバイスを受け、連携を図りながらサービスの質の向上に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、会議の内容を全職員で共有している。身体拘束の弊害も含め、外部研修に参加したり、ホーム内の研修でも共通の認識で身体拘束をしない取り組みを行っている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、全職員は身体拘束の弊害について理解を深めているほか、やむを得ず身体拘束をする場合には重要事項説明書で家族に説明し、同意を得ている。居室の扉や玄関は施錠しており、知人等と面会できるように配慮している。また、日々の関わりにより、外出の要望等を受け止め、見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、外部研修に参加し、学んできた事を職員で共有している。また、グレーゾーンを含め、職員同士で声をかけあい、チェックリストを定期的に行い、言葉による虐待等にもならないように全職員で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員に対して周知を図っている。必要な利用者に対して支援を行い、必要に応じて家族へ成年後見制度の説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に家族へ重要事項説明書を示して、十分に説明している。また、退所時には身体機能に合わせた受け入れ先を確保してから、退所していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、その都度、利用者の現状を話し合いながら意見や要望を聞き取り、支援に繋げている。面会のない家族には手紙や電話で近況を報告している。	運営推進会議の委員に家族代表者が入っているほか、玄関に苦情受付担当者や外部の相談窓口を明示している。家族には面会時に意見や要望を聞いたり、毎月の通信誌でホームでの利用者の近況等を報告し、広報誌等でホーム全体の状況を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、問題や疑問点があった場合は会議を行い、各職場の提案事項や意見交換を行っている。	法人のスケールメリットを活かし、法人内で週1回の業務連絡会議や月1回の連絡調整会議で、現場の状況や意見等を施設長が把握し、適切なアドバイスをしている。場合によっては施設長から法人代表者に伝わって、ホームの運営に反映させる仕組みとなっている。また、職員の異動については同じ建物内にある施設等に限られ、馴染みの関係を保っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面接により、職員個々に合った目標設定の研修へ参加しているほか、資格の取得等、積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面接により職員個々に合った目標設定により、外部研修等へ積極的に参加するように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホームの研修に参加し、他の地域の方々との情報交換を行っている。そこでの話し合った事を職員会議で報告し、サービスの質の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談室を準備し、外部に聞かれることなく、ゆっくりと相談できるようにしており、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談室を準備し、外部に聞かれることなく、ゆっくりと相談できるようにしており、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーの情報提供や家族の思いや考えを把握し、必要に応じて介護保険サービスの説明や法人内のサービス事業所を紹介する等、必要なサービス提供ができるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は作業優先ではなく、利用者と共にできる事を常に探し、考え、毎日を送ることで関係を構築している。また、コミュニケーションが困難な場合においても、利用者からのアクションを受け止め、共感し、理解することに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭で生活していた時の様子を聞き、希望しているケアを家族と同じ思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約の際にも面会や外出、外泊について、協力を依頼している。デイサービスを利用して同郷者との交流等、身近な人との関係が途切れないように支援している。	入所時のアセスメントで利用者の好みを把握し、利用者との日々の関わりから馴染みの生活習慣や環境等を感じ取り、全職員で共有している。時には職員が家族等に連絡し、利用者と家族等と一緒にドライブや買い物、外食等に出かけられるように支援に繋げる等、利用者本位の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶の時間は全ての利用者でホールに集まり、職員も参加して会話を楽しむ雰囲気づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設に移った方についても、気軽に遊びに行ったり、訪問していただいている。また、介護サービス利用の相談や他の事業所への紹介等も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の希望を受け入れている。また、日々の行事や表情から思いを汲み取り、把握し、利用者にとって最良の支援となるように検討している。	入所時のアセスメントで家族等から聞き取り、把握している。また、日々の関わりや定期的なモニタリング等により、利用者一人ひとりの意見・意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員が中心となり、常に利用者の要望やこれまでの生活について話し合っている。家族等の話も含め、「生きがいのある生活」を提供できるよう、利用者一人ひとりがどのような環境で生活してきたのか、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活をその時々記録して、利用者の全体像の把握に努め、できる事を見出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議で話し合い、現時点に合った介護計画を作成している。また、面会時に状態を報告したり、家族や利用者の思いを反映させている。	介護計画について併設する在宅介護支援センターのケアマネージャー等の専門的なアドバイスを評価を得て、随時、職員との話し合いや申し送りを行い、多くの意見や気づきを反映させている。また、介護計画の評価・変更時には家族へ説明し、それらの意見を基に作成している。月1回、担当職員と管理者を含めたモニタリングも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意して食事やバイタル、排泄、日常生活の様子を個々に記録している。また、特記事項や情報を連絡ノートに記録し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援はその都度対応している。外出の希望時は、外出支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や広報誌等により、地域の情報交換や収集を行い、日常の活動に取り入れるようにしている。また、地域の祭りや店への買い物、外食等、実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院はホームの協力医のほか、利用者の希望する医療機関を受診できるよう、通院介助を行ったり、訪問診療を受けている。	アセスメント等において受診状況を把握し、かかりつけ医の継続受診はもちろん、利用者や家族等の要望を取り入れ、希望する医療機関への受診に繋げている。受診の際はホームで送迎し、市街地の歯科や眼科等の受診にも対応する等、幅広い支援に努めている。また、受診状況や結果については、家族通信や電話等で家族に伝えており、報告方法は納得を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤であるため、常に相談・連携しながら対応している。また、月1回の定期受診や往診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の情報を医療機関に提供し、頻繁に見舞い、家族とも連絡を取りながら、早期退院に努めている。また、医療機関との連携はホームの看護師が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命に対する確認書を作成し、家族と医療関係者と連携を取りながら対応している。また、全職員が協力している。	ホームの対応について「看取り介護に関する指針」により説明し、看護師が中心となり、病状急変時及び終末期の対応について、利用者や家族から同意を得ている。併設する施設や地域包括支援センターのランチと連携をしており、ホームの看護師を中心に職員間で困難な事や不安が生じないように努めているほか、重度化した場合に備えて、家族等と連絡を取り合う体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習の受講やマニュアルを準備し、併設施設と協力して、研修会を行っている。また、「ヒヤリハット」報告書の内容を分析し、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、職員と利用者が一緒に併設施設と合同で総合防災訓練を実施しているほか、ホーム単独でも災害訓練を実施している。地域の消防署や警察署、庁舎とも協力体制を取っている。	併設する施設との合同避難訓練を年2回行い、消防署や警察署等にも立ち会いを求め、連携している。消火器や避難経路の点検等も定期的に行い、災害備蓄用の食料や飲料水等は併設する施設と一括で管理しており、ストーブの購入や常時使用する湧き水の浄化槽管理に配慮している。また、ホームの立地環境から「土砂災害に関する避難確保計画」を新たに策定して、いざという時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりをありのまま受け入れ、その方らしい生活を送れるように声かけをしている。また、言葉遣いに気をつけ、声のトーンや心理的に虐待にならないように気をつけている。特に排泄の際には、プライバシーに配慮している。	利用者への声かけについては「さん」づけで呼ぶように心がけつつ、利用者の希望等にも配慮している。プライバシーへの配慮について、業務上の守秘義務については職員から誓約書を徴し、個人情報の取り扱いは入所時に家族にも説明し、同意を得ている。また、行事等での個々の写真使用についても家族へ説明し、了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自分の好きな作業を選んでいただき、継続できるようにしている。利用者が自己決定しやすいよう、選択しやすい言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を優先し、無理に勧めず利用者のペースに合わせている。希望時はいつでも温泉浴ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	併設施設に理・美容室が設置され、地域の理・美容師が月1回、出張してくれるので、希望者はカットやパーマ、毛染等、整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は弁当を持参し、同じテーブルで会話を楽しみながら食べている。利用者は食事の配膳や後片づけを行っている。	献立については併設する施設の管理栄養士が作成し、一括調理となっている。食事が楽しいものとなるよう、おやつや誕生日の食事等、メリハリをつけるように工夫し、状況に応じて、無理のないように手伝い等を促している。食事等の時間には必ず全職員が利用者と同じテーブルに着き、食事介助や見守りをしながら、喫食状況や健康状態を把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残渣調査を行い、できるだけ食べていただけるよう、量も利用者一人ひとりに合わせた盛り付けにしている。また、家族から利用者の好物の差し入れをいただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯みがきを実施し、できない利用者には介助している。また、週1回、義歯の消毒を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状況に合わせて、排泄のチェックリストを作成し、排尿パターンを把握して、さりげなく声かけやトイレ誘導を行っている。夜間、希望者にはポータブルトイレを使用している。	日々の関わりから利用者一人ひとりの排泄状況を記録し、傾向を捉えて事前誘導を行う等、自立に向けて支援を行っている。紙オムツや尿取りパッドの使用については家族とも話し合い、利用者の状況に応じて夜間のみ使用に努め、声かけ方法も工夫する等、プライバシーに配慮した排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量は利用者一人ひとりに合わせて用意している。また、活動に平行棒を使った運動や散歩等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回以上の入浴を予定しているが、利用者の希望を聞き、利用者に合わせて対応している。入浴しながらいない方には時間や曜日をずらし、心地良く入浴することができるように工夫している。	利用者一人ひとりの状況や希望等を把握し、日々の体調にも配慮しながら、週2回の入浴を促している。ホームでは温泉を利用することができるため、利用者一人ひとりの体調や気持ちに配慮し、丁寧な声かけを行い、無理強いすることなく、入浴するように促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は、利用者個々のペースに合わせており、体調等により居室で休んでもらっている。また、温度や湿度、騒音等に配慮して安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方された薬について看護職員より説明を受け、説明書を十分に読み、薬の目的や副作用を理解した上で服薬介助を行っている。服用後は利用者の様子観察を行い、症状の変化等の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合わせ、食器洗浄や食事準備、口腔体操、掃除、裁縫等を行い、役割を持って生活できるように支援している。買い物や散歩等を行い、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の楽しみに繋がるよう、スーパーで買い物をしたり、散歩を行っている。また、家族と連絡を取り合い、希望する時には自宅へ外出できるように支援している。また、季節毎に観光施設へ出かけ、外食等を行っている。	定期的に外出行事を行い、利用者の意向に配慮しながら食事や買い物、ドライブを楽しんでいる。日々の関わりで利用者の行きたい場所を把握するように努め、季節に応じて桜や紅葉狩りを楽しんでいる。また、町内の祭り見学にも出かけ、昔の慣習に触れる機会を設けているが、体調がすぐれない時はホームでの静養や日程変更する等の配慮をしており、家族からも了解を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3,000円程度を利用者が管理している。また、管理が困難な場合は家族が行っている。利用者預り金品管理規定に沿って、預っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設の施設にポストを設置している。また、電話は随時取り次ぎ、いつでも、自由に使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースが広いとため、ソファやテーブルを置き、レイアウトや配席を変更しているほか、温度管理を行っている。また、季節を感じるような展示物や花等で模様替えを行っている。	ホールは十分な明るさを保っており、くつろげるスペースを設け、利用者の憩いの場となっている。居室の窓は大きく、時間帯によっては十分な明るさを保ちながら、落ち着いた雰囲気となっている。また、ホールや廊下、居室も含めて床暖房となっており、廊下には天井型のエアコンを取り付け、適切な温・湿度保ち、利用者が快適に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や活動の際には、利用者の関係性を考慮した配席にしている。また、テーブルやソファを設置し、気の合う利用者同士で楽しく過ごせる場所を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は持ち込み可能にしており、外出時に使い慣れた物を持って来ていただいている。また、小物に関しては使い慣れた物を持ち込み、不自由のないようにしている。	居室には家族等の写真や置き物等を持ち込み、できるだけ自宅と同じ雰囲気となるように配慮している。居室への持ち込みが少なかったり、家族等との面会が少ない利用者に対しては、利用者の意向や趣味に沿って壁面に装飾をする等、生活の場としての雰囲気づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりを設置し、使いやすくしている。洗濯物は自分の居室やベランダに干すことができるように低くして、持ち運びのできる物を用意している。また、ホーム内はバリアフリーで、利用者が安全に移動できるようになっている。		